



## 社長メッセージ

スマートフォン、タブレット端末向けに  
拡大する半導体需要を取り込むと同時に、  
コスト抑制や組織力強化に努め、  
市場でのプレゼンスを高めていきます。



## 事業環境・業績

2012年度の半導体市場では、スマートフォンやタブレット端末の生産拡大に伴う積極的な設備投資が上期に行われました。その後、第3四半期に半導体メーカー各社は生産調整を実施したものの、期末にかけて需給バランスが適正化されると、市場は回復基調に転じました。このような事業環境において当社は積極的な販売活動を行った結果、売上高は前年度から増収となり、過去2番目の水準となりました。

精密加工装置では、レーザーや薄化用グラインダなどの高付加価値製品の販売が量産向けに伸長し、精密加工ツールは、顧客工場の高い設備稼働率に比例して、売上高・出荷数量ともに過去最高を更新いたしました。

利益面では、研究開発費用が過去最高となるなど、販売管理費は前年度から膨らんだものの、製品構成の改善や円高是正の影響などによりGP率が前年度に比べ上昇したことから、営業利益は8.8%の増益となりました。

## 取り組みと見通し

2013年度もスマートフォン、タブレット端末が半導体市場をけん引する構図は変わらず、アジア地域のOSAT(後工程受託メーカー)を中心としたIC向けの堅調な出荷を見込んでおります。ここ数年、上期には顧客からの力強い引き合いが継続する一方、秋口から需要が落ち込む傾向にあるため、下期の市場動向を注視していく必要があります。利益面では、為替の円高状態が是正されつつあることから、国内に製造拠点を構える当社においては収益性の改善を見込んでおります。また市場環境はアジア地域を中心にコスト競争が厳しさを増すなど、状況は大きく変わりつつあります。これに対し『過剰品質』や『過剰手続き』の廃止などによりコストを抑制すると同時に、技術的な優位性を保つために、引き続き研究開発活動に注力していきます。

そして、社員ひとりひとりが能動的に判断して業務を行える組織となるよう社内施策を積極的に実施し、組織力の強化を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては今後とも一層のご支援を賜われますようお願い申し上げます。

# CUTTING EDGE

カッティングエッジ



**DISCO**

Kiru・Kezuru・Migaku Technologies

## 74期事業のご報告

2012年4月1日～2013年3月31日

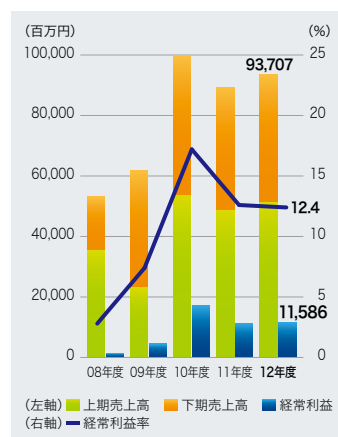
2013年6月

代表取締役社長 関家一馬

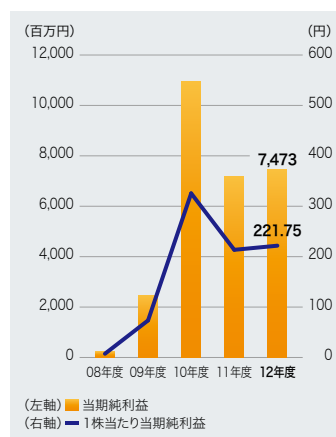


## 財務ハイライト

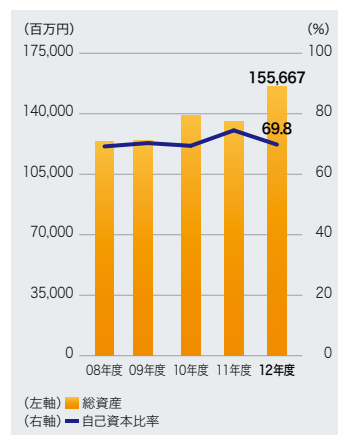
### 売上高・経常利益・経常利益率



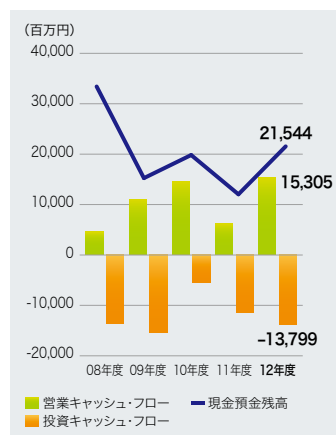
### 当期純利益・1株当たり当期純利益



### 総資産・自己資本比率



### キャッシュ・フロー



## 当期の概況

当期(2012年4月1日から2013年3月31日まで)では、スマートフォンやタブレット端末などの出荷台数が大幅に増加したことから、これらに使用される半導体・電子部品を生産するメーカ各社が設備投資活動を活発化させました。特にアジア地域を中心とする半導体製造の後工程受託メーカから旺盛な引き合いがあったため、売上高は前期と比べ5%増加しました。

製品別では、精密加工装置がダイサ(精密切断装置)・グラインダ(精密研削装置)ともにIC用途を中心に堅調な出荷となったほか、消耗品である精密加工ツールの売上高・出荷数量は、ともに過去最高を更新しました。

利益面では、付加価値の高い製品の出荷が堅調だったことに加え、期末にかけて円高が是正傾向にあったため、利益率は前期よりも上昇しました。経費については、研究開発の積極化と海外拠点の強化などにより、販売管理費が増加しました。

以上の結果、当期の業績は前期から増収増益となる、売上高937億7百万円、営業利益116億1百万円、経常利益115億86百万円、純利益74億73百万円となりました。

### ■財政状態について

当期末の総資産は、前期末と比べ198億77百万円増加し、1,556億67百万円となりました。これは主に、工場新棟の建設を目的とした銀行借入などで現預金が増加したためです。

負債は、前期末と比べ118億57百万円増加し、451億10百万円となりました。純資産は、前期末と比べ80億19百万円増加し、1,105億56百万円となりました。

これらの結果、負債比率が高まったため、自己資本比率は前期末比4.7ポイント減となる69.8%となりました。

### ■キャッシュ・フローの状況

営業活動では153億5百万円の資金増加、投資活動では137億79百万円の資金減少だったことからフリー・キャッシュ・フローは15億26百万円の資金増加となりました。これは営業活動による資金増加が高水準だったものの、投資活動においてシンガポールオフィスの建設や定期預金の預入で多額の資金支出があったためです。

財務活動では工場新棟の建設を目的とした銀行借入を行っております。これらの結果、当期末の資金残高は前期末から95億6百万円増加し、215億44百万円となりました。

### 通期の連結業績予想

スマートフォン・タブレットPC機器関連需要は旺盛で、半導体メーカ各社の設備投資は比較的高い水準で推移するものと思われます。また、円安効果などにより収益性の改善を見込んでいるため、2期連続での増収増益を予想しています。

2014年3月期

(金額の単位：百万円)

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
97,500	13,800	14,200	9,300	275.91円

## CLOSE UP!

## ディスコの強さの秘密

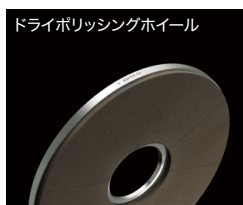
## 事業体質の強化

## 収益性を安定させる精密加工ツールの売上高は、今後も伸び続けていきます。

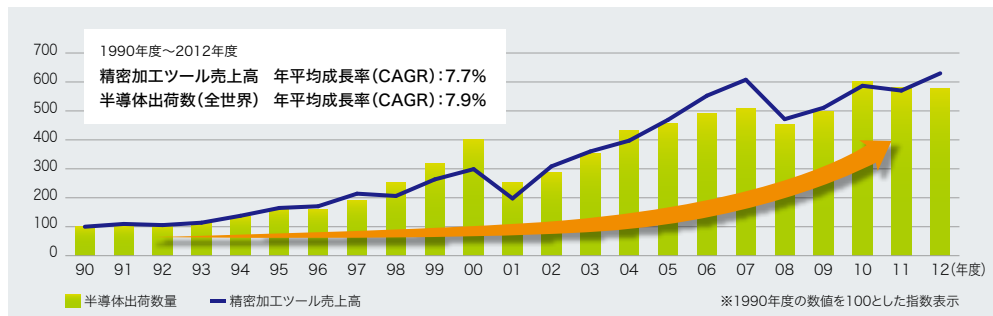
ディスコが販売している製品は、大きく『精密加工装置』と『精密加工ツール』に分けることができます。この精密加工ツールは、人造ダイヤモンドが含まれる砥石を円盤状に成形したもので、精密加工装置に装着・回転させて、素材の切断や研削を行います。切るための「ダイシングブレード」や、削るための「グラインディングホイール」などがあり、形状・厚さ・原材料・ダイヤモンド粒の大きさなどにより、その種類は数万にも及びます。

この精密加工ツールは、客先工場にて生産が行われる限り消費されていく消耗品であることから、常に一定量の需要が見込まれます。そしてその売上高は、世界中で販売されるスマートフォンやタブレット端末などの、半導体製品の出荷数量の伸びと相関関係にあるため、その年平均成長率(CAGR)は、1990年から現在までで7.7%となっています。

このように、消耗品ビジネスは継続的にキャッシュ・フローを生み出しやすく、景況感に左右されにくい構造となっており、半導体市場特有のシリコンサイクルといわれる好不況の波に対し、収益の変動性を低減することができます。今後もこの消耗品ビジネスを発展させ、その収益によって固定費の大半をカバーできるような安定収益体制の構築を目指していきます。



## 半導体出荷量とディスコ精密加工ツールの売上高



## 組織力の強化

## “関係の質”を向上させ、働きがいのある会社へ。

今後も成長が期待される半導体業界では、技術力やコストなどによるメーカー間の競争が激しさを増しています。このような環境の中でディスコがお客さまの要求に応え続けていくためには、組織力のさらなる強化が必要不可欠です。

当社の中核的な価値観であるDISCO VALUESには「個々の能力は他との有機的な関わりによって、より大きな力になる」と明記されていることから、2009年度および2012年度の経営方針(目標管理)のひとつに“関係の質”の向上を設定いたしました。これは、社内の明るい雰囲気の仕事の楽しさを増やし、従業員の能力を伸ばす重要な要素であるという考えのもと、全社員が組織の連帯感を高める施策について考案・実行することで、信頼関係の向上を目指したものです。

具体的には、スポーツの分野でディスコグループNo.1を競う「DISCO Olympics」を通じて従業員同士の交流を深めたほか、「天下一技道会」と呼ばれる技術競技会では、ベテランから新人までの経験の異なる設計者が同じ課題でモノづくりに挑み、組織の垣根を越えたチームの一体感を高めました。

これらの施策などが奏効し、ディスコはGreat Place to Work Japanが主催する2013年版「働きがいのある会社ランキング」※において180社中10位に入賞いたしました。また、2009年の初参加以来5年連続の入賞となりました。

※ Great Place to Work Japanは“働きがい”を「従業員が会社を信頼し、自分の仕事に誇りを持ち、一緒に働いている人達と連帯感を持てる会社」と定義し、世界共通基準で40ヶ国以上の企業を調査・分析しています。

## 「働きがいのある会社」ランキング推移

年	ディスコ	参加社数
2009年	25位	77社
2010年	8位	81社
2011年	11位	121社
2012年	7位	123社
2013年	10位	180社

1位	グーグル
2位	日本マイクロソフト
3位	Plan・Do・See
4位	ワークスアプリケーションズ
5位	サイバーエージェント
6位	アメリカン・エキスプレス
7位	ザ・リッツ・カールトン東京
8位	トレンドマイクロ
9位	三幸グループ
10位	ディスコ



DISCO Olympics 水泳大会の様子



## ディスコの企業理念



「高度なKiru・Kezuru・Migaku技術によって  
遠い科学を身近な快適につなぐ」

3つのコア技術を深めることで、ディスコは産業と暮らしに貢献していきます。

### 「高度なKiru・Kezuru・Migaku技術」とは

ディスコのビジネステーマを指しています。人類に欠かせない普遍的な技術である「切る」「削る」「磨く」という事業領域において、ディスコは世界のオンリーワン企業でありたいと考えています。あえてローマ字で表記しているのは、これらの分野でディスコの技術が世界標準となり、日本語でそのまま通用するようなレベルを目指すという、強い思いが込められているからです。

### 「遠い科学を身近な快適につなぐ」とは

ディスコの社会的使命(ミッション)を意味しています。日々進歩していく科学技術を、ディスコの「高度なKiru・Kezuru・Migaku技術」によって、人々の暮らしの豊かさや快適さに帰結させていきたい、という考えを表現しています。

### ディスコが追い求める成長とは

企業の成長をどのように定義するかによって、経営の方向性は大きく変わります。ディスコの「成長」とは売上やシェア、規模の拡大などに依らず、2つの基準によって評価されています。ひとつはミッションの実現度が高まり、社会により大きく貢献ができてきているか、もうひとつはお客様・従業員・サプライヤ・株主など、すべてのステークホルダとの価値交換性が向上しているか、です。